

新京橋連結路（地下）の整備効果に関する有識者ヒアリング結果

1. 日 時 令和6年2月7日（水）～13日（火）
2. 有識者 東京都立大学 都市環境学部 教授 朝日 ちさと
一般社団法人日本自動車連盟 交通環境部長 柴田 年輝
日本大学 理工学部土木工学科 教授 中村 英夫
東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科 教授 兵藤 哲朗
(敬称略・五十音順)
3. 概 要 新京橋連結路（地下）の事業化にあたり、東京都事業評価委員会の委員をはじめ事業評価に精通する有識者に当該事業における整備効果に関してヒアリングを実施
4. 具体的なご意見
(事業全体・整備効果全般について)
 - ・ 本事業は、日本橋区間地下化に伴い廃止となる江戸橋 JCT の都心環状線連結路の代替機能の確保や渋滞緩和をはじめ、様々な効果が期待されるため、日本橋区間地下化の工事工程とあわせ、早期に事業化し完成させるべき意義のあるプロジェクトである。
 - ・ 本事業については、日本橋区間の地下化や老朽化対策、KK 線再生と一体となって都市空間の創出や機能改善を図る側面もあり、一連の取組に必要不可欠な事業である。
 - ・ 海外では、ボストンで高速道路の地下化によって都市空間を創出した事例があるが、事業評価は行っておらず、本事業も海外の事例と同様に、事業評価は馴染まない。
 - ・ 本事業による様々な整備効果は妥当である。本事業への理解や透明性を更に高めるため、様々な整備効果については、積極的な発信や事後的な把握などに努めるべき。
(個別の整備効果について)
 - ・ 都心環状線における大型車交通の環状機能にミッシングリンクが生じると、利用者は最適なルート選択ができなくなり、結果として無駄な交通が誘発されるなど、様々な悪影響が懸念されることから、本事業による大型車交通の環状機能確保が必要である。

- ・ 箱崎 JCT や江戸橋 JCT 周辺は常に渋滞しておりボトルネックとなっているため、日本橋区間地下化とあわせて渋滞緩和を図ることは、一般車両だけでなく、物流の効率化の観点からも有効性が高いと考えられる。
- ・ 築地川区間の老朽化対策や車道内橋脚の撤去により線形改良を図ることは、車両の走行性や安全性の向上など、自動車ユーザーにとっての道路交通環境の改善にも寄与すると考えられる。
- ・ 計画では、車両が故障した際の退避場所としての路肩の確保や、注意喚起のための道路標識も設置されるため、自動車ユーザーの走行安全性も確保された事業になると期待できる。
- ・ 本事業を契機とした KK 線の再生により、都心で大規模なオープンスペースが確保され、歩行者系ネットワークやみどりのネットワークが構築されることの効果は非常に大きい。防災や脱炭素、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラなど、定量的な算出が難しい様々な効果の発現にも資すると評価できる。
- ・ 本事業は日本橋区間地下化と一体の事業であり、日本橋区間地下化により、近隣地域の消費増加や不動産価値向上などの経済波及効果も期待できる。

(その他)

- ・ 将来的には、高速晴海線の延伸によるネットワークの進展により、都心と基幹的広域防災拠点（有明の丘地区）や東京港、豊洲市場のアクセス強化やリダンダンシー向上が図られ、防災性向上や物流強化にも資することが期待される。